

那賀川流域を主体とした生態系ネットワークの取組

那賀川河川事務所

那賀川流域の自然環境(魚類・鳥類)

■上流域の概要(川口ダム上流)

鳥類ではヤマセミ、カワガラス等が生息し、猛禽類の繁殖も確認されている。また、水域にはアマゴ、アユ、タカハヤ等の魚類が生息しており、支川丈ヶ谷川では教育機関や自治体等との協同により地元児童を対象にしたアユの産卵場づくりを実施している。



ヤマセミ



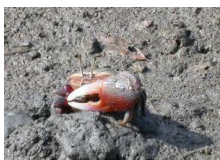
アユ



アマゴ

■汽水域の概要(潮止め堰～河口)

河口付近では干満差による干潟が出現し、シオマネキや固有魚などの貴重種が確認されていることから、阿南市生物多様性ホットスポットに選定されている。また、魚類ではマハゼ、ボラ、スズキ等が生息し、鳥類ではシギ、チドリ類等の渡来地となっている。



シオマネキ



シギ・チドリ



マハゼ



スズキ

■中流域の概要(川口ダム～十八女橋)

鳥類ではセキレイ類、サギ類等が生息している。また、水域にはアユ、オイカワ、ウグイ等の魚類が生息している。



セキレイ



オイカワ



ウグイ

■桑野川の概要

上流の水域には県の天然記念物であるオヤニラミが生息し、中下流域ではヤリタナゴ、ヌマムツ等緩流を好む魚類が多い。



オヤニラミ



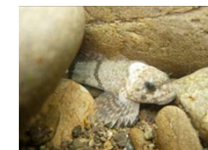
ヤリタナゴ

■下流域の概要(十八女橋～潮止め堰)

水域にはアユ、ウグイ、サツキマス、ヨシノボリ類等の魚類が生息し、瀬はアユの産卵場となっており、自然再生事業により瀬環境の保全・創出を図るとともに地元小学生によるアユの産卵場づくりを実施している。また、河原にはコアジサシやシロチドリなどの鳥類が生息しており、一部の砂州では、ねぐらをとるナベヅルも確認されている。



コアジサシ



カジカ (小卵型)



ナベヅル

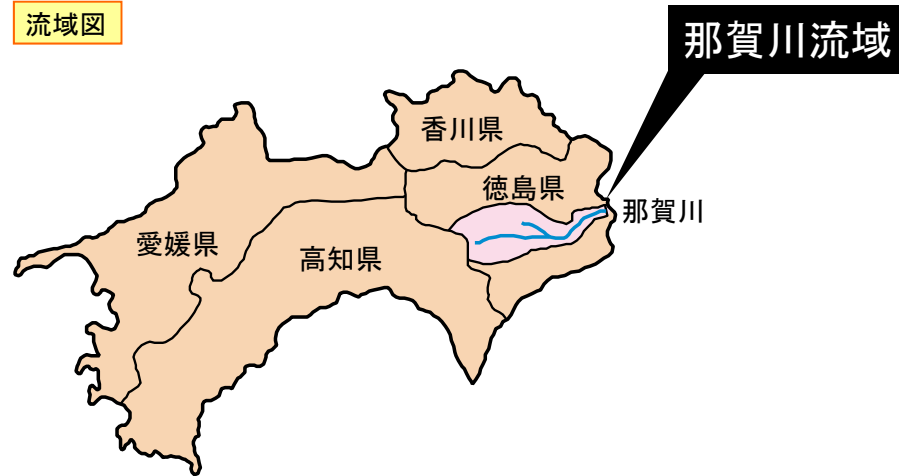


アユ

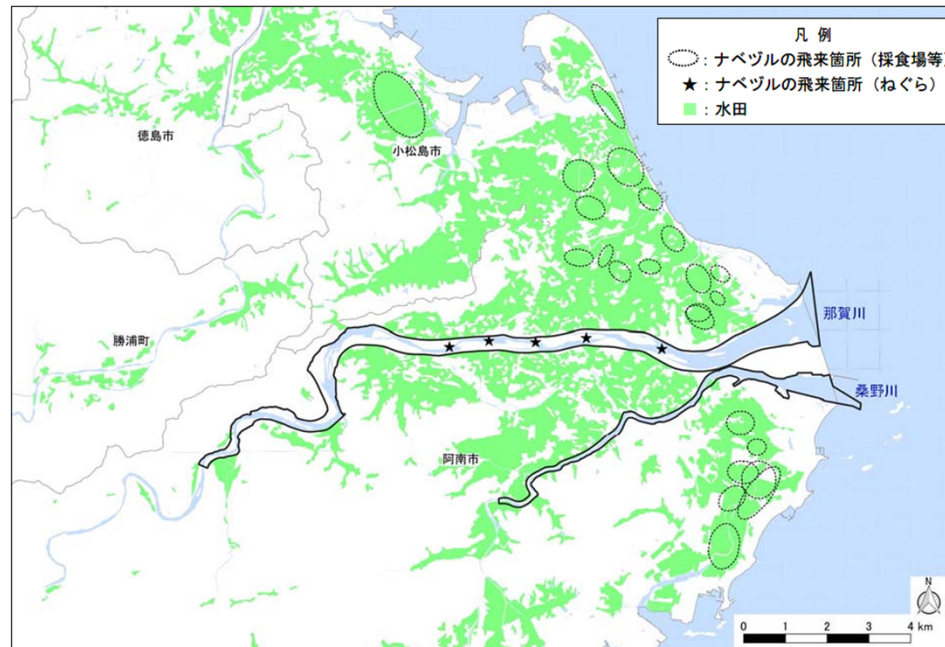


那賀川流域の自然環境(ツル類)

流域図



- 四国では、ツル類（主にナベヅル）の飛来記録が吉野川流域、那賀川流域、四万十川流域に集中している。
- 那賀川流域においては、2008年度よりナベヅルの飛来が確認されており、2015年度には34羽、近年では2023年度に最大7羽が飛来し、6羽の越冬が確認されている。
- 那賀川では、周辺の水田で採餌し、河川内の砂州をねぐらとして利用している。



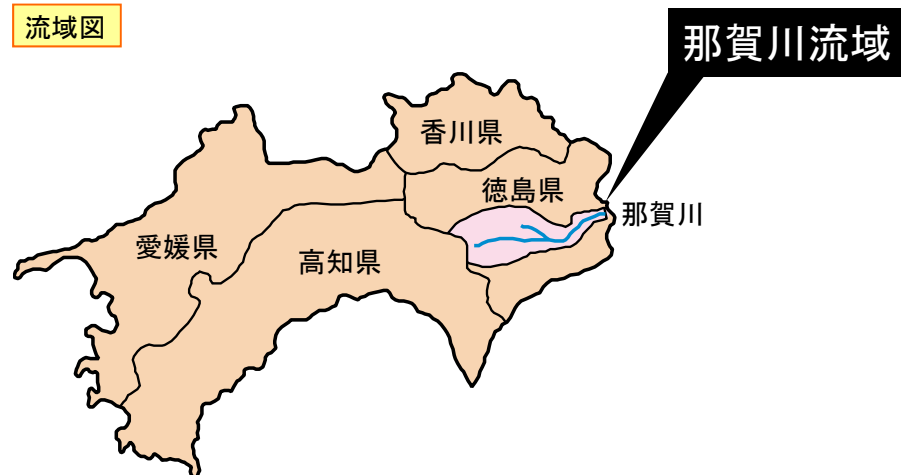
那賀川流域におけるツル類の飛来状況



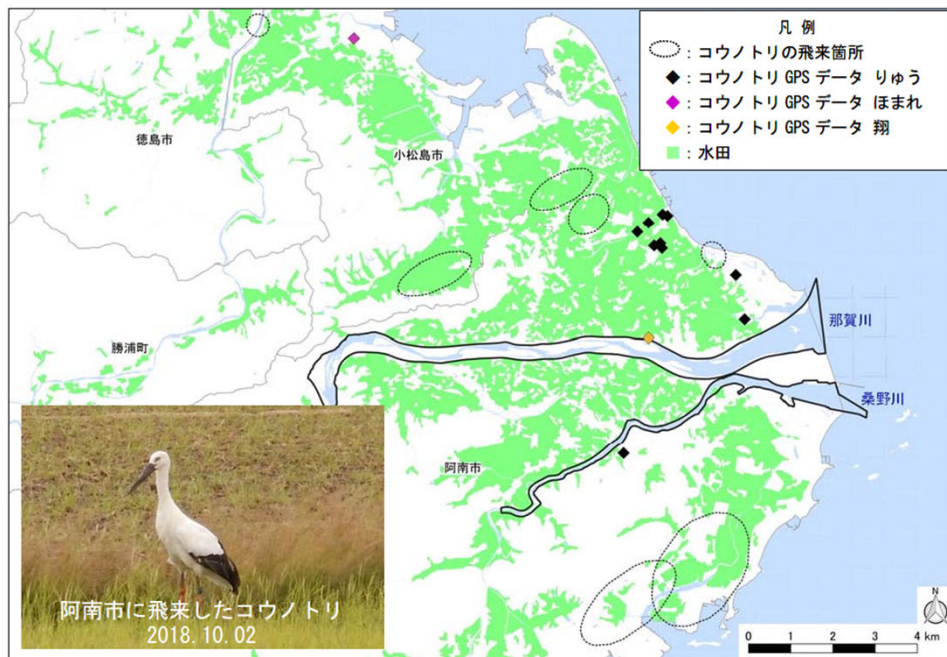
那賀川でねぐらをとるナベヅル（2015 年度の越冬時）
撮影日：2015. 12. 24、写真提供：日本野鳥の会

那賀川流域の自然環境(コウノトリ)

流域図



- 四国では、四万十川流域、吉野川流域に集中しているものの、那賀川流域の周辺においても確認記録がある。
- 那賀川流域では、2013年からコウノトリの飛来が確認されており、良好な水田環境が残されていることから、主に周辺の水田地帯へ飛来している。
- 近年では、2022年度に阿南市、小松島市で3羽の飛来が確認されている。



那賀川流域周辺におけるコウノトリの飛来状況

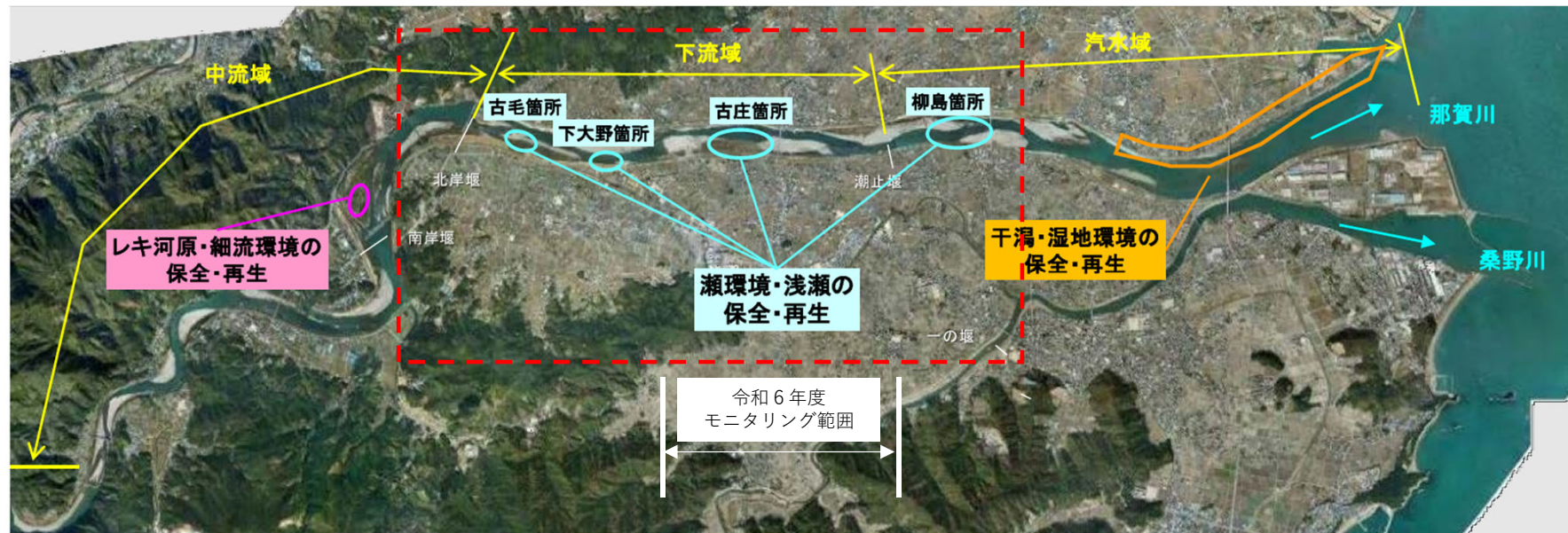
コウノトリのGPSデータは福井県エネルギー環境部自然環境課と千葉県野田市みどり水のまちづくり課に放鳥されたコウノトリのGPSデータの利用申請を行い、データを取得した。



環境保全型農業に取り組む水田に飛来したコウノトリ
〔徳島県小松島市〕
写真提供：小松島市

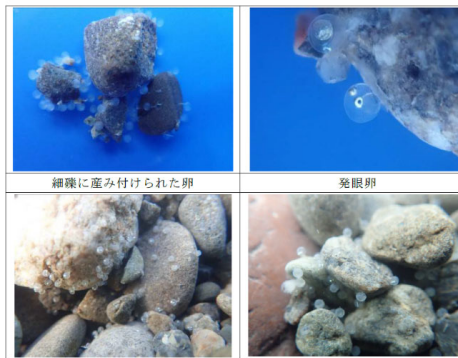
那賀川流域の自然環境(アユ)

- 那賀川では古くからアユ漁業が盛んであり、那賀川を代表する水産資源である。
- 近年では、水質・河床材料の変化による餌環境の悪化や生息場・産卵場となる瀬の減少が課題となっており、アユの産卵が減少している。
- そのため「那賀川自然再生事業」では下流域を中心に、河床整正及び床止工を設置することで、アユ産卵場となる瀬環境の維持・創出に努めている。
- また、上流域においても徳島大学や自治体、地元小学校等が連携した、アユの産卵場づくりが進められている。



■アユの産卵場調査（下流域）

アユの産卵状況



令和6年度のモニタリング調査により、阿南市羽ノ浦町岩脇地区～イコス堰区間において複数のアユの産卵場を確認。

■アユの産卵場づくり（上流域）



写真提供：徳島大学河口准教授

那賀川流域を主体とした生態系ネットワーク

徳島県では、多様な主体が連携・協働し、コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成による地域活性化及び経済振興の実現を図るための効果的方策の検討と取組の推進を目的とした協議会が設置されており、規約第7条（地域ワーキング）に基づき、**那賀川流域を対象に地域の課題に関する検討を行うワーキングを設置**する。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

■ 指標種：コウノトリ・ツル類

■ 事務局：徳島河川国道事務所・那賀川河川事務所・徳島県

- 「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」の委員を中心に、**コウノトリ・ツルの飛来地**である県内**自治体首長**が参加。
- 吉野川流域・那賀川流域等の県内他流域を加えた、「**徳島県流域生態系ネットワーク全体構想**」を策定。



専門部会

「地域・人づくり」
「生息環境づくり」

・地域ワーキングでの検討
及び事業実施における
専門的知見からの支援

支援

地域ワーキング(各流域において複数の設置を目指す)

徳島河川国道事務所

鳴門地区地域ワーキング

先行モデル

・事業を具体的に推進するために、地域の課題に関する検討を行うために複数のワーキングを設置。

- 鳴門地区地域・人づくりワーキング
- 旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング
- 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング

那賀川河川事務所

那賀川流域地域ワーキング検討会

・那賀川流域生態系ネットワークは、鳴門地区と同様に、上部組織である徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の地域ワーキングとして位置づけ、生態系ネットワークの形成を図る。

那賀川流域生態系ネットワークの取組範囲の検討

那賀川流域生態系ネットワークの取組範囲

鳥類については阿南市及び周辺地域である小松島市において、ナベヅルの飛来・越冬やコウノトリの飛来が確認されている。

魚類について那賀川下流（阿南市）では、多くの天然アユが遡上していることが確認されており、那賀川上流（那賀町）では、陸封アユが確認され、全国各地のアユが参加する清流めぐり利きアユ会において準グランプリを獲得した実績がある。

以上の理由により、那賀川及び桑野川流域及び周辺地域（小松島市を含む）を対象地域として想定する。



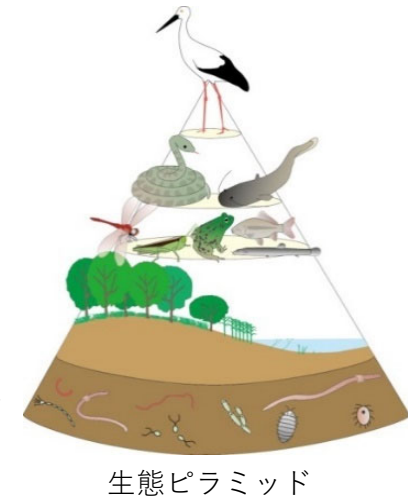
指標種・シンボル候補(案)

指標種・シンボルの設定意義について

- ・生態系ネットワークの形成の取組には多様な主体との連携が不可欠。
- ・多様な主体との連携を進めるうえで、流域住民の理解・共感が得られる象徴的な生きものを指標種・シンボルとして設定することで、取組の方向性や、取組で目指すゴール（状態）を関係者が共有しやすくなる。

指標種・シンボルについて（鳥類）

- ・河川の流域や、流域間、さらに広域を移動する鳥類は、生態系の広域的なつながりを指標する。
- ・中でも大型水鳥類は、里地里山や河川の生態ピラミッドの頂点に立つ高次消費者や、生物多様性を示すアンブレラ種で、その地域に生息することが、「食物となる多くの生きものを育む豊かな自然環境がある証」になる。また、姿かたちが優美であるなど、多くの人々に取組の効果を実感してもらいやすい。



種名	生態	主な生息場所	指標種候補とした理由
コウノトリ 	・留鳥 ・魚類（ドジョウ、コイ、フナ等）、両生類（カエル）、昆虫類（バッタ、コウチュウ）、貝類、甲殻類（ザリガニ）等を採食。	水田、池沼、湖沼、河川、湿地等	・流域内の採食・ねぐら・営巣環境の適切な配置を指標する。 ・那賀川流域への飛来・生息が確認されている。
ナベヅル 	・冬鳥（秋・冬に西南日本等で越冬） ・植物（種子・根茎・葉）、昆虫、魚類を採食。	水田、湿地、河川、海岸、干潟等	・流域内の採食・ねぐら環境の適切な配置を指標する。 ・那賀川の砂州でねぐらを取り、周辺の田んぼで採食する姿が観察されている。

指標種・シンボル候補(案)

指標種・シンボルについて（魚類）

- ・回遊性のある魚類などの水生生物は、河川の上・中・下流や支川・水路・水田・池沼などの流域内の水域のつながりを指標する。
- ・水生生物のなかでも、地域の歴史・文化・生活との関わりなどが顕著な種は、地域における取組のシンボルとなりえる。

種名	生態 ※1、※2	主な生息場所 ※1	指標種候補とした理由
アユ 	・秋に生まれた仔稚魚は海に下って越冬し、翌春に再び河川に遡上する。 ・仔稚魚は動物プランクトン食性、成魚は付着藻類食性である。	河川の上・中流域や湖・ダム湖	・遡上・降下するため、河川の縦断方向の連続性を指標する。 ・那賀川における漁業、遊漁の対象となっている。 ・那賀川本川、桑野川の国管理区間で生息が確認されている。※3

※1 細谷和海ら（2019）「山溪ハンディ図鑑 増補改訂 日本の淡水魚」

※2 リバーフロント整備センター（1996）「川の生物図典」

※3 令和3年度那賀川・長安口ダム水辺現地調査（魚類）外業務報告書（2022年5月）

指那賀川流域における生態系ネットワークの指標種・シンボル

以上の点から、那賀川流域における生態系ネットワークの指標種・シンボルの候補を以下とした。

指標する連結性・環境	指標種・シンボル
広域的なつながり	コウノトリ・ツル類
河川の縦断的なつながり	アユ

地域ワーキング検討会設置に向けた今後の動き

令和6年度：那賀川流域地域ワーキング準備会（令和6年12月17日設置）

- ・那賀川流域地域ワーキング検討会の立ち上げに向け、自治体・学識者により方針・構成員等について検討中。

※：現在実施中

令和7年度：那賀川流域地域ワーキング検討会、コアワーキング設置予定

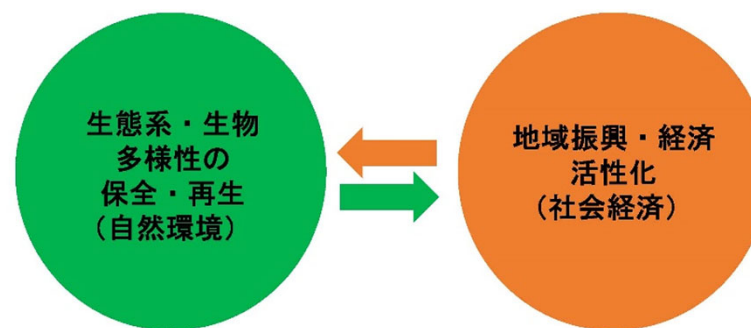
■那賀川流域地域ワーキング検討会

- ・各コアワーキングにおける流域での取組内容を決定する。

■コアワーキング

- ・ツル類・コウノトリ、アユを対象にそれぞれの現状や課題を具体的に協議し、流域での取組内容を検討する。

多様な主体の連携のもと、生物多様性の保全に向けた取組を推進することにより地域の魅力・活力の向上を図り、**地域活性化**を目指す。



出典：「河川を基軸とした生態系ネットワーク形成のための手引き（河川管理者向け）（案）」
国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 R02.2